

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;"><b>基礎ゼミナール I B</b></p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間社 1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">井上 徹</p>
<p>授業テーマ</p> <p>大学生として必要な、読む、書く、考える力をつける。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>情報を探索し、まとめ、発表することは、大学において身に付けなければならない基本的な技能の一つです。本を読み、書かれたものをまとめ、発表し、人に伝える技能の習熟をめざします。</p>		
<p>評価方法</p> <p>出席状況 + ゼミでの発表 + レポートの内容  (40%) (30%) (30%)  ゼミを欠席するなどもってのほかです。</p>		
<p>テキスト</p> <p>① 羞恥心はどこへ消えた？  ② 脳の中の人生</p>	<p>著者</p> <p>菅原健介  茂木健一郎</p>	<p>出版社</p> <p>光文社  中央公論新社</p>
<p>参考書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>各自がゼミや課外で行う事柄は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献を読み、関連する情報を探す。</li> <li>2. ジュメ（発表のための要約）を作る。</li> <li>3. ゼミの時間に発表する（1人、15分間）</li> <li>4. 質問を受け、それに答える。</li> <li>5. 各自でその時間の振り返りをする。</li> </ol> <p>（注意）予定された発表ができない場合は、ゼミを欠席したのと同じ扱いにします。</p> <p>スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎ゼミ（後期）へのオリエンテーション、夏休みの課題発表</li> <li>2. 「羞恥心はどこへ消えた？」についての発表（1） レジュメを用いて、1人15分間で発表する。</li> <li>3. 「羞恥心はどこへ消えた？」についての発表（2） 々</li> <li>4. 「羞恥心はどこへ消えた？」についての発表（3） 々</li> <li>5. 「脳の中の人生」についての発表（1） レジュメを用いて、1人15分間で発表する</li> <li>6. 「脳の中の人生」についての発表（2） 々</li> <li>7. 「脳の中の人生」についての発表（3） 々</li> <li>8. まとめのレポート作成</li> </ol> <p>テキストについて</p> <p>①は、社会心理学者が見た「羞恥心」と現代日本における「恥の文化」。地べたに座り込むのは恥ではない？  ②は、脳科学者が語る、脳と人生の結びつき。“合脳的な”人生術がいろいろあげられています。</p> <p>授業は、隔週で行なわれます。</p>		